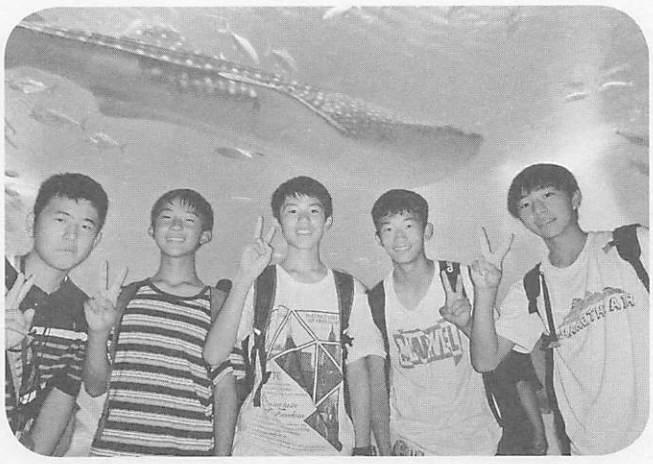
第Ⅰ部
基本構想







未来を拓く力の育成（附属学校園共通主題）

研究主題

持続可能な社会を支える資質・能力の育成
ー論理的に思考し表現する学び合いを通してー

（３か年研究最終年次）

１　本附属学校園における研究の方向性

愛媛大学は，大学憲章において「豊かな創造性，人間性，社会性を備え，次代を担う自覚と誇りをもつ優れた人材を社会に送り出すことを最大の使命とする。」と謳っている。このことは，附属学校園で軌を一にして果たすべき使命でもある。この使命を果たすべく，教育学部附属学校園では，「未来を拓く力の育成」を共通主題として掲げ研究実践をすすめている。附属の各学校園は，学校段階も異なり，子どもたちの持つ特性も違う。だからこそ，各学校園の特性及び学校園間の系統性や連続性を踏まえて，それぞれの発達段階や子どもたちの特性に応じて，一人一人の「未来を拓く力」をどう捉えればよいのか，そして「未来を拓く力」を育むにはどのようにすればよいのかを連携して研究・実践を積み重ねてきた。

２　主題設定の理由

地球環境問題，テロや紛争の問題など，近年，社会の持続可能性に関わる問題が急速に深刻化している。このような中，2005年からＥＳＤの取組が世界中でスタートした。このような状況において，本校では，前研究サイクルより，本附属学校園の共通主題にある「未来を拓く力」を，「持続可能な社会の形成に向け，主体的に行動できる資質・能力」と捉え，研究実践を積み重ねてきた。また，考えや思いを筋道立てて伝えることや聞き取ること，重要な要素を捉え，議論を深めていくなど，「論理的に思考し表現する力」を学校全体で体系的に育成し，生徒一人一人がそれを発揮して学び合うことにより，持続可能な社会を支える資質・能力をよりよく育てることができるのではないかと考え，研究主題を「持続可能な社会を支える資質・能力の育成」，サブテーマを「論理的に思考し表現する学び合いを通して」と設定した。

３　持続可能な社会を支えるために育成すべき力

研究主題を具現化するために，まず，本校の教育目標である「自立」および「共生」の力に照らした，持続可能な社会を支える資質・能力を育まなければならないと考えた。

（本校の教育目標と望ましい子ども像）

【教育目標】　自立と共生の力をもつ生徒の育成
【望ましい子ども像】 ○　真理を求める探究心をもって，物事を多面的・多角的に考察し，その学びを楽しもうとする ○　自信と誇りをもって，可能性に挑戦し続けようとする ○　豊かな感性や表現力と他者を尊重する心をもち，積極的に自己を拓いて他者に働き掛けようとする

（本校の教育目標に照らして設定した，持続可能な社会を支える資質・能力）[1]

【持続可能な社会を形成するための「自立」の力】
- ○物事を多様な観点から捉え，問題の本質を見抜く力
- ○広い視野で物事を客観的に判断する力
- ○よりよい社会や自分の姿を思い描く力
- ○実現に向け粘り強くチャレンジし続ける力
- ○問題の解決にむけ，自ら考え，見通しをもって行動する力
- ○解決の過程や結果を振り返って修正・改善する力
- ○自分の気持ちや考えを表現し，伝える力

【持続可能な社会を形成するための「共生」の力】
- ○多様な価値観を認める力
- ○互いの個性を尊重する力
- ○社会の形成者としての自覚をもち，他と協調しながら自ら進んで行動する力
- ○現在，そして将来にわたり社会的・経済的に公正な社会を築こうとする力

4　研究計画ーどのようにして研究を進めていくのかー（昨年度の研究の成果と課題から）

これをもとに，各教科領域の学習内容や目標をＥＳＤの視点で捉え，研究主題を具現化する学習指導の目標を，**資料１**のように設定した。

教科領域	ＥＳＤの視点に立った学習指導の目標
国　語	文学作品における読みの課題を協同的に読み深める学習活動の展開
社　会	よりよい社会や自分の姿を思い描く力の育成
数　学	解決の過程や結果を振り返って修正・改善する力の育成
理　科	科学的根拠に基づき判断する態度の育成
音　楽	自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成
美　術	感性を豊かにし，心豊かな生活を創造していく力の育成
保健体育	豊かなスポーツライフの実現に向けて主体的に運動実践できる力の育成
技術・家庭	生活の中の課題を見付け，解決する力の育成
	技術分野：技術を活用する力を育てる学習指導の在り方
	家庭分野：習得した知識や技能を生活に生かす力の育成
英　語	自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成
行く河（総　合）	自分らしく生き抜く生徒の育成

資料１　ＥＳＤの視点に立った学習指導の目標

これを育むため，昨年度は次の３点からアプローチし，成果や課題が得られた。[2]

(1) 逆向き設計論に基づく学習指導の充実

○教師が持続可能な社会を支える資質・能力の育成を見据えて教科の本質を捉え，指導に当たることで，生徒は「何のためにその学習をするのか」を意識しながら，よりよく学習内容を身に付けることができた。

▲「論理的に思考し表現する学び合い」をどのように「持続可能な社会を支える資質・能力」の育成につなげていくか，構想を更に練っていく必要がある。

(2) 言語技術教育を取り入れた学習活動の展開

○全校体制で進める言語技術教育を土台として，各教科の実践においてもその手法を取り入れた取組が研究され，生徒の「論理的に思考し表現する力」の高まりが随所に見られるようになった。それに伴い，学び全体の質の向上が見られた。

▲全校や各教科で育成すべき「論理的に思考し表現する力」の捉えについて検討し，よりよくその力が身に付くような言語技術教育の在り方について迫っていく必要がある。

(3) 資質・能力が育つ評価（パフォーマンス評価等）の工夫

○各教科での実践において，生徒が主体的に取り組むパフォーマンス課題を設定し，適切なルーブリック等の評価を作成することで，生徒の資質・能力の育ちを適切に見取ることができた。

▲持続可能な社会を支える意識と意欲を高めるという面では，振り返り等においてじっくり自分の取組について振り返り評価する機会を保障し充実させていく必要がある。

これまでの成果と課題を踏まえ，最終年次の取組として，資質・能力が確かに育つ学習指導の充実と蓄積を図るとともに，学校全体としての「持続可能な社会を支える資質・能力」や「論理的に思考し表現する力」を統合していくことを目指した，各教科における研究の再整理を行い，３年間の研究のまとめにしたいと考えた。そこで，今年度は次の３点からアプローチすることにした。

(1) 逆向き設計論に基づく学習指導の充実

本校の実態に照らした逆向き設計テンプレートの改善と各単元・題材における取組の蓄積

(2) 言語技術教育を取り入れた学習活動の展開

① 各学年において言語技術が身に付いた姿を明確にした言語技術教育の充実

② 言語技術を効果的に活用しながら，教科等の見方や考え方を働かせて問いの解決に向かうといった，深い学びを実現する問題解決的な学習の創造

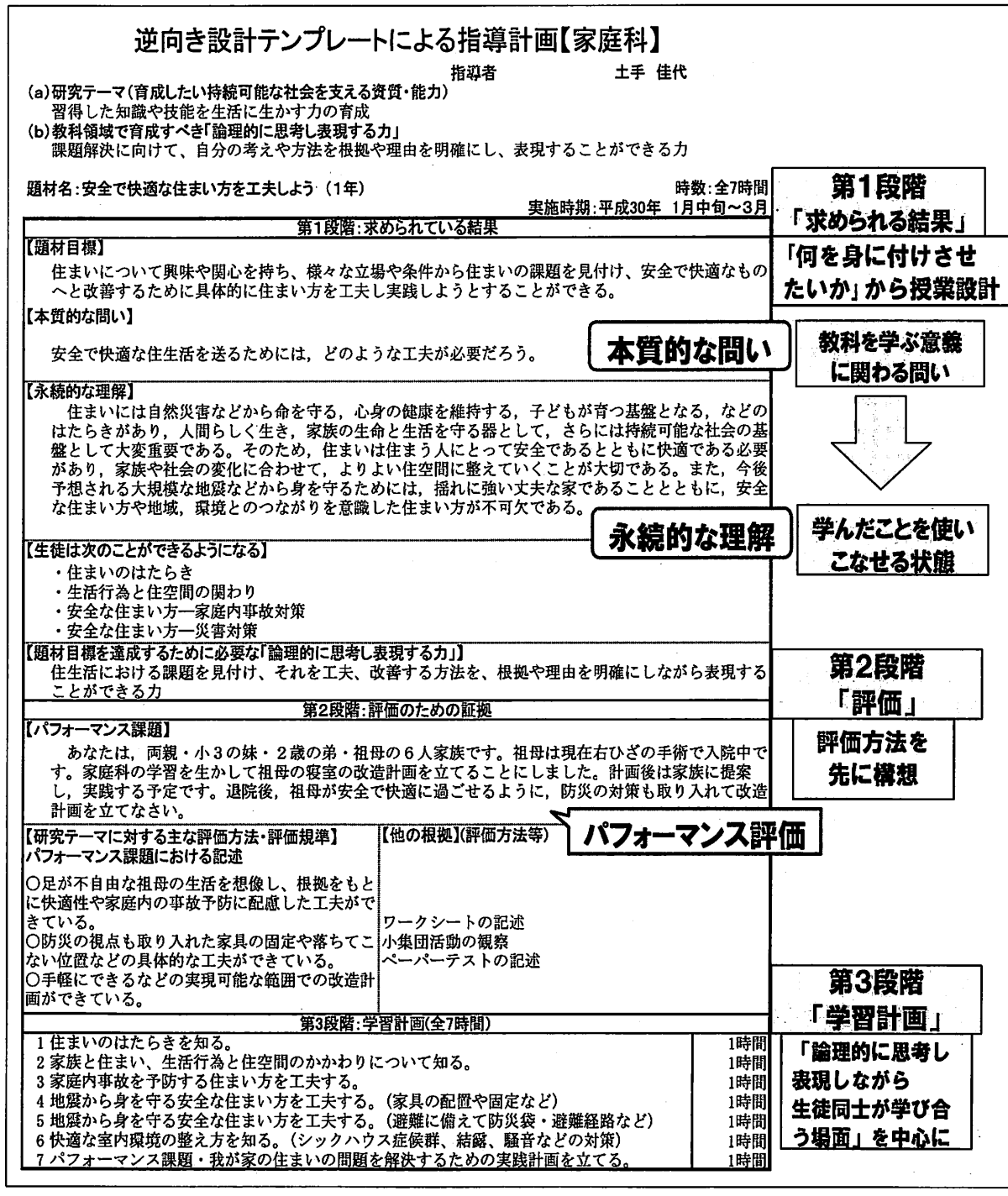
(3) 資質・能力が育つ評価（パフォーマンス評価等）の工夫

① 各単元・題材におけるパフォーマンス評価の開発・改善と資料の蓄積

② 学校全体としての「持続可能な社会を支える資質･能力」の高まりを見取る評価と主体的な学びにつなげる評価の在り方の検討

(1) 逆向き設計論[3]に基づく指導の充実

指導計画を立案する際には，**資料２**に示す，「逆向き設計論」に基づくテンプレートを活用した。「逆向き設計論」とは，「生徒に何を身に付けさせたいか」ということから翻って授業を設計し，指導が行われた後で考えられがちな評価方法を先に構想するものである。この「逆向き設計論」に基づきながら，本校では，次の３段階で指導計画を作成した。①まず，（第１段階）として，教科等で育成すべき資質・能力に対応する「求められている結果」を明確にする。その際，単元を通して追究する「本質的な問い」（教科を学ぶ意義に関わる問い）とそれを追究することによって得られる「永続的な理解」を構想する。ここでいう「理解」とは，持続可能な社会づくりに関わる価値，及び何ができるようになるかに関わる資質・能力を含めたものである。②（第



逆向き設計テンプレートによる指導計画【家庭科】

指導者　　土手　佳代

(a)研究テーマ(育成したい持続可能な社会を支える資質・能力)
習得した知識や技能を生活に生かす力の育成
(b)教科領域で育成すべき「論理的に思考し表現する力」
課題解決に向けて、自分の考えや方法を根拠や理由を明確にし、表現することができる力

題材名:安全で快適な住まい方を工夫しよう（1年）　　時数:全7時間
実施時期:平成30年　1月中旬～3月

第1段階:求められている結果

【題材目標】
住まいについて興味や関心を持ち、様々な立場や条件から住まいの課題を見付け、安全で快適なものへと改善するために具体的に住まい方を工夫し実践しようとすることができる。

【本質的な問い】
安全で快適な住生活を送るためには，どのような工夫が必要だろう。

【永続的な理解】
住まいには自然災害などから命を守る，心身の健康を維持する，子どもが育つ基盤となる，などのはたらきがあり，人間らしく生き，家族の生命と生活を守る器として，さらには持続可能な社会の基盤として大変重要である。そのため，住まいは住まう人にとって安全であるとともに快適である必要があり，家族や社会の変化に合わせて，よりよい住空間に整えていくことが大切である。また，今後予想される大規模な地震などから身を守るためには，揺れに強い丈夫な家であることとともに，安全な住まい方や地域，環境とのつながりを意識した住まい方が不可欠である。

【生徒は次のことができるようになる】
・住まいのはたらき
・生活行為と住空間の関わり
・安全な住まい方ー家庭内事故対策
・安全な住まい方ー災害対策

【題材目標を達成するために必要な「論理的に思考し表現する力」】
住生活における課題を見付け、それを工夫、改善する方法を、根拠や理由を明確にしながら表現することができる力

第2段階:評価のための証拠

【パフォーマンス課題】
あなたは，両親・小３の妹・２歳の弟・祖母の６人家族です。祖母は現在右ひざの手術で入院中です。家庭科の学習を生かして祖母の寝室の改造計画を立てることにしました。計画後は家族に提案し，実践する予定です。退院後，祖母が安全で快適に過ごせるように，防災の対策も取り入れて改造計画を立てなさい。

【研究テーマに対する主な評価方法・評価規準】
パフォーマンス課題における記述
○足が不自由な祖母の生活を想像し、根拠をもとに快適性や家庭内の事故予防に配慮した工夫ができている。
○防災の視点も取り入れた家具の固定や落ちてこない位置などの具体的な工夫ができている。
○手軽にできるなどの実現可能な範囲での改造計画ができている。

【他の根拠】(評価方法等)
ワークシートの記述
小集団活動の観察
ペーパーテストの記述

第3段階:学習計画(全7時間)

1 住まいのはたらきを知る。	1時間
2 家族と住まい、生活行為と住空間のかかわりについて知る。	1時間
3 家庭内事故を予防する住まい方を工夫する。	1時間
4 地震から身を守る安全な住まい方を工夫する。(家具の配置や固定など)	1時間
5 地震から身を守る安全な住まい方を工夫する。(避難に備えて防災袋・避難経路など)	1時間
6 快適な室内環境の整え方を知る。(シックハウス症候群、結露、騒音などの対策)	1時間
7 パフォーマンス課題・我が家の住まいの問題を解決するための実践計画を立てる。	1時間

資料２　逆向き設計論に基づく指導計画（逆向き設計テンプレート）※今年度改善したもの

２段階）としては「求められる結果」が達成できているかを確かめるための「評価」を検討する。ここでは，知識やスキルを使いこなし，何ができるようになったかということを測るための，パフォーマンス課題を位置付けた。③そして，（第３段階）として，「求められる結果」と「評価」に対応できる学習活動を計画する。ここでは，「論理的に思考し表現しながら生徒同士が学び合う場面」を中心に構成した。

このように，「本質的な問い」と「永続的な理解」からなるゴールイメージを明確にして，指導計画を立案することにより，想定した資質・能力が確実に育つ学習が構想できると考えた。今年度は，研究テーマと論理的に思考し表現する力，永続的な理解を一層明確にし，それらが一体となった指導を図るために，昨年度までの逆向き設計テンプレートを修正するとともに，教科間で内容の検討を行うなど，学習指導の共通認識を図った。

(2) 言語技術教育を取り入れた学習活動の展開

「論理的」とは，簡単に言えば，話が飛躍したり，必要な情報を欠いたりせずに，筋道立てて，相手が理解できるように分かりやすく表現することである。相手の理解と納得を引き出すために必要なのが「論理」であり,「話し手」と「聞き手」が互いに理解し合いながらコミュニケーションをするために必要なのが「論理」である。[4]「逆向き設計論」に基づく指導における，「論理的に思考し表現する」学び合いの実現のために，研究１年次より学校全体及び各教科において「育成すべき論理的に思考し表現する力」を**資料３**のように設定し，その育成を目指した。

論理的に思考する力	問いについて，６Ｗ１Ｈなどを使って（自己内）対話を繰り返すことにより，不明確な点や疑問点を明確にしながら，思考を広げたり，深めたりできる力
論理的に表現する力	６Ｗ１Ｈを明確にするなどして，話が飛躍したり必要な情報を欠いたりせずに，筋道を立てて（相手が納得するように）表現できる力

※６Ｗ１Ｈ……When（いつ） Where（どこで） Who（だれが） What（何が，何を）
Why（なぜ） What for（何のために） How（どのように）

資料３－①　本校で設定した学校全体で育成すべき論理的に思考し表現する力

国　語	主張・事実・理由付けを明確にし，筋道を立てて考え，表現する力
社　会	事象や問題の背景を熟考して自分の意見や考えを持ち，その根拠を明確にして表現する力　※熟考……時間的・空間的な視野を持って，多面的・多角的に考察すること
数　学	数学的な表現を用いて，課題解決の仕方や推論の過程を論理的に説明する力
理　科	根拠を明らかにして予想や考察を行う力
音　楽	音を媒介として，自己のイメージや感情などの感性と音楽活動を通して習得した知識や技能を身に付けて，思いや意図を持って表現する力
美　術	鑑賞活動：多様な価値観に触れながら見方を広げるとともに，自分なりの価値意識を持って分析し，根拠を持って説明することができる力 表現活動：基礎的な知識や技能を基に構想を練り，課題を解決しながら主題に迫ることができる力
保健体育	課題を解決するためのよりよい方法を思考し，必要な情報を伝え合う力
技　術	課題や目的に応じた技術の活用方法について根拠を持って図や表を用いて説明することができる力
家　庭	課題解決に向けて，自分の考えや方法を根拠や理由を明確にし，表現することができる力
英　語	相手が理解できるように筋道を立てて分かりやすい英語で表現する力

資料３－②　本校で設定した各教科等において育成すべき論理的に思考し表現する力

これらの力は，私たちが目指す資質・能力を育む上での土台となる力だと考える。そして，これらを育成する手段として核としたのが言語技術教育である。

○言語技術教育の推進とその手法を活用した各教科における学習指導方法の工夫

言語技術とは，言葉を使いこなす技術であり，物事の論理的な思考とそれに基づく表現の型となるものである。基本的な技術を習得しなければ，スポーツを上手くやることができないのと同じ様に，言葉も基本は技術が必要だと考える。[5] その基本を身に付けさせるものが言語技術教育である。研究１年次より，つくば言語技術研究所（代表三森ゆりか氏）の協力を得ながら，言語技術教育を進めることとした。

毎週金曜日，朝の10分間を言語技術教育の時間とし，具体的には６Ｗ１Ｈを使いこなす技能を育む「問答ゲーム」を実施した。また，朝の会や終わりの会を中心に「パラグラフによるスピーチ」の型による１分間スピーチを行った。６Ｗ１Ｈを使いこなす技能を育む「問答ゲーム」の留意点は**資料４**のとおりである。

さらに今年度は，**資料５**のような，絵の分析を取り入れた活動を行うなど，発達段階に応じたよりよい言語技術教育の在り方について検討・実施するなどして，金曜朝の言語技術教育の内容や各教科等の指導改善に生かした。

生徒Ａ：班で話をするときに，自分から先に話を始め，後で他の人の話を聞く人と，先に話を聞き，後で自分の話をする人がいます。あなたは，班で話をするときに，どちらを選びますか？

生徒Ｂ：私は，先に話を聞き，後で自分の話をします。

※　*結論を先に言う*

生徒Ａ：それは，なぜですか？

※　*６Ｗ１Ｈのいずれかを使って質問をする*

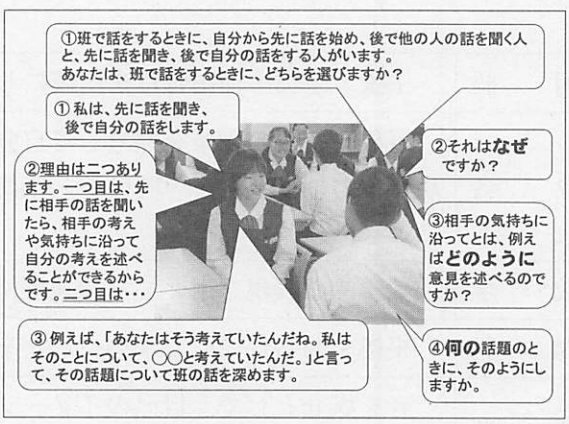
生徒Ｂ：理由は二つあります。一つ目は，先に相手の話を聞いたら，相手の考えや気持ちに沿って自分の考えを述べることができるからです。

二つ目は，……

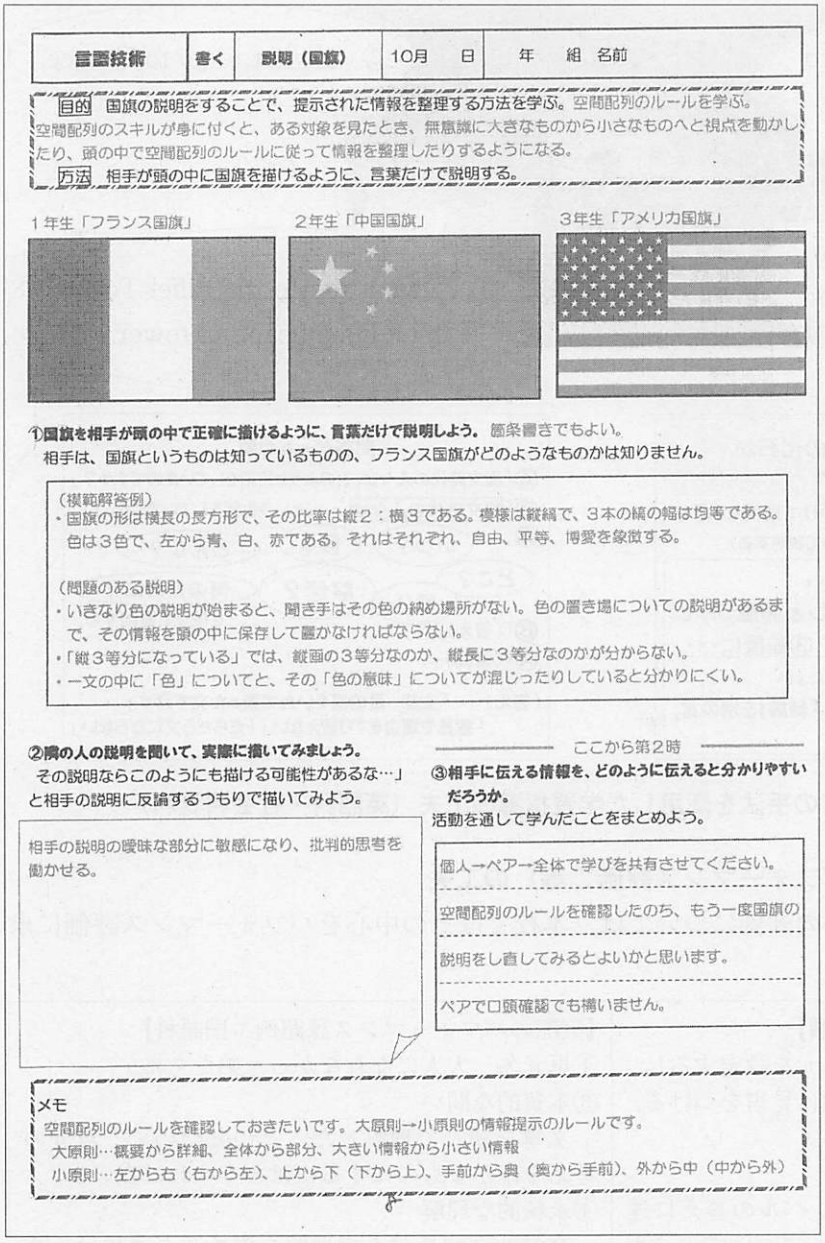
※　*複数の回答がある場合は，ナンバリングを使って答える*

生徒Ａ：相手の気持ちに沿ってとは，例えばどのように意見を述べるのですか？……

※質問者（生徒Ａ）は一定時間質問をし続け，回答者（生徒Ｂ）は回答し続ける。



資料４　「問答ゲーム」の例【出典：つくば言語技術教育研究所】



言語技術 | 書く | 説明（国旗） | 10月　日 | 年　組　名前

目的　国旗の説明をすることで、提示された情報を整理する方法を学ぶ。空間配列のルールを学ぶ。
空間配列のスキルが身に付くと、ある対象を見たとき、無意識に大きなものから小さなものへと視点を動かしたり、頭の中で空間配列のルールに従って情報を整理したりするようになる。
方法　相手が頭の中に国旗を描けるように、言葉だけで説明する。

1年生「フランス国旗」　2年生「中国国旗」　3年生「アメリカ国旗」

①国旗を相手が頭の中で正確に描けるように、言葉だけで説明しよう。 箇条書きでもよい。
相手は、国旗というものは知っているものの、フランス国旗がどのようなものかは知りません。

（模範解答例）
・国旗の形は横長の長方形で、その比率は縦2：横3である。模様は縦縞で、3本の縞の幅は均等である。色は3色で、左から青、白、赤である。それはそれぞれ、自由、平等、博愛を象徴する。

（問題のある説明）
・いきなり色の説明が始まると、聞き手はその色の納め場所がない。色の置き場についての説明があるまで、その情報を頭の中に保存して置かなければならない。
・「縦3等分になっている」では、縦画の3等分なのか、縦長に3等分なのかが分からない。
・一文の中に「色」についてと、その「色の意味」についてが混じったりしていると分かりにくい。

②隣の人の説明を聞いて、実際に描いてみましょう。
その説明ならこのようにも描ける可能性があるな…」と相手の説明に反論するつもりで描いてみよう。

相手の説明の曖昧な部分に敏感になり、批判的思考を働かせる。

ここから第2時

③相手に伝える情報を、どのように伝えると分かりやすいだろうか。
活動を通して学んだことをまとめよう。

個人→ペア→全体で学びを共有させてください。
空間配列のルールを確認したのち、もう一度国旗の説明をし直してみるとよいかと思います。
ペアで口頭確認でも構いません。

メモ
空間配列のルールを確認しておきたいです。大原則→小原則の情報提示のルールです。
大原則…概要から詳細、全体から部分、大きい情報から小さい情報
小原則…左から右（右から左）、上から下（下から上）、手前から奥（奥から手前）、外から中（中から外）

（絵の分析の目的）
対象を大きなものから小さなものへ視点を動かしたり，ルールに従って情報を整理したりすることができるようにする。

○　国旗を相手が頭の中で正確にかけるように，言葉だけで説明する。
○　聞き手は相手の説明の曖昧な部分に反論しつつ，考えられる図をかく。

○　情報を分かりやすく伝えるための要素（ルール）について話し合う。
（例）
- 概要から詳細へ
- 全体から部分へ
- 大きい情報から小さい情報へ　など

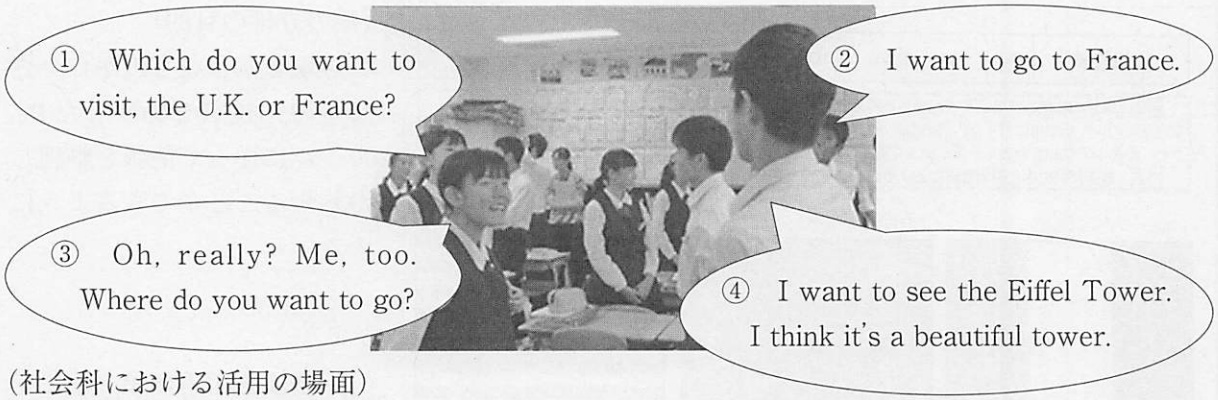
○　ルールを確認し，分かりやすい国旗の説明をし直す。

資料５　今年度新たに取り入れた言語技術活動「絵の分析」【出典：つくば言語技術教育研究所】

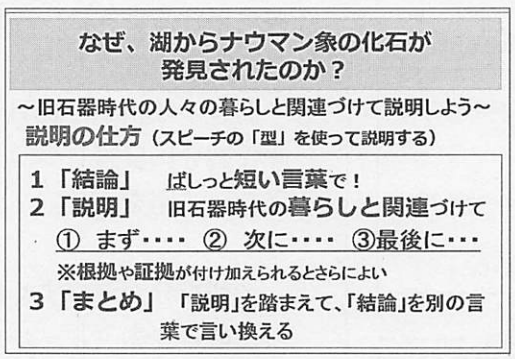
また，「問答ゲーム」や「パラグラフによるスピーチ」の型は，各教科等の学習においても，積極的に活用した（**資料６**）。教科特有の資質・能力に基づいた６Ｗ１Ｈを意識して問答ゲームを行わせることで，深い学び合いにつなげるようにした。

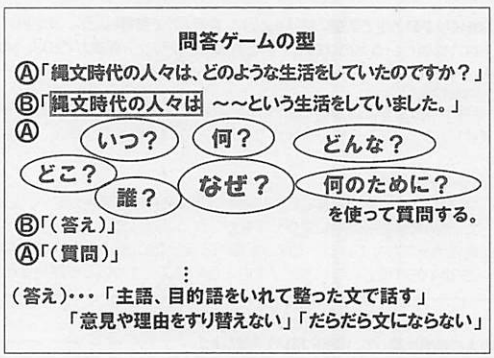
（英語科における活用の場面）

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　英語で問答ゲームを行う。（ペア）	3	○ “Which do you want to visit, the U.K. or France?” のテーマで話そう。	○論理的に述べさせるために，結論を先に言わせ，６Ｗ１Ｈを意識させた。 ○質問やつなぎ言葉などを用いて，会話が１分間以上続くようにさせた。
CAN-DO　I can tell my classmates about Hiro's life in London and my trip plan.			



（社会科における活用の場面）





資料６　言語技術教育の手法を活用した学習指導の工夫（英語科・社会科資料）

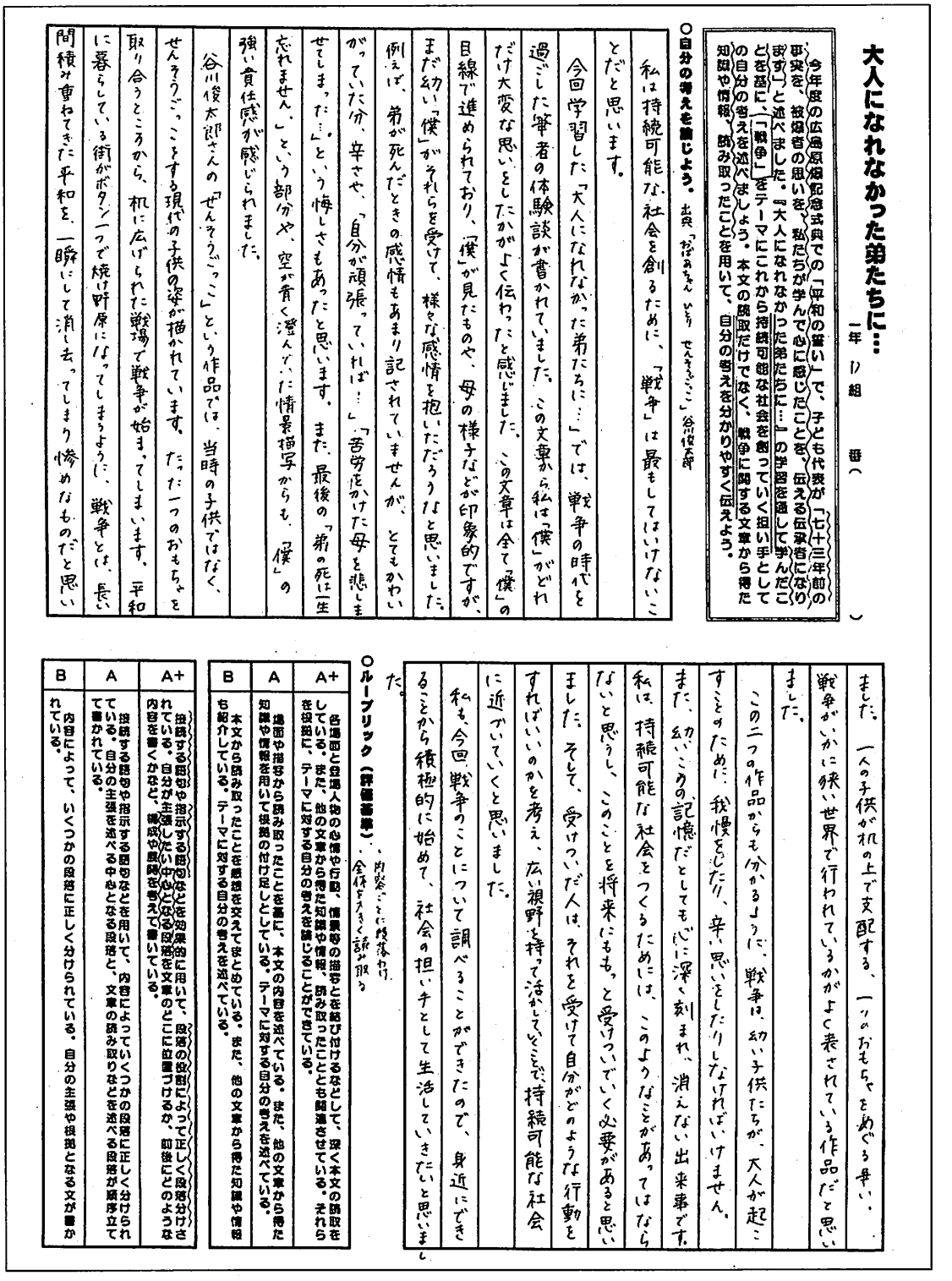
(3) 資質・能力が育つ評価（パフォーマンス評価[6] 等）の工夫

資質・能力が育ったかどうかの評価については，本校ではその中心をパフォーマンス評価に求めた（**資料７－①**）。

【パフォーマンス課題づくりの手順】 ①単元を選ぶ（適切なサイズの単元を設定する）。 ②単元の中核に位置する重点目標に見当をつける。 ③「本質的な問い」を明確にする。 ④その問いに対してどのようなレベルの答えに達して欲しいか（「原理や一般化」についての「永続的な理解」）を明文化する。 ⑤パフォーマンスの課題のシナリオを作る。 〈シナリオの６要素〉 ○何が目的か？ ○（学習者が担う）役割は何か？ ○誰が相手か？ ○想定される状況は？ ○生み出すべき完成作品・パフォーマンスは？ ○（評価の）観点は？	【実際のパフォーマンス課題例：国語科】 ①単元名　大人になれなかった弟たちに… ③本質的な問い 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにするにはどうすれば良いか。 ④永続的な理解 文学的文章を読んで理解を深めるためには，複数の場面を結び付けたり，各場面と登場人物の心情や行動，情景等の描写とを結び付けたりすることが重要である。また，自分の考えを確かなものにするために，図書資料だけでなく，新聞や雑誌，インターネットなど様々な媒体の複数の資料から多様な情報を取捨選択して，それらを基に自分の考えを持つことが必要である。 ⑤パフォーマンス課題 今年度の広島原爆記念式典での「平和の誓い」で，子ども代表が「73年前の事実を（中略）伝承者になります」と述べました。『大人になれなかった弟たちに……』の学習を通して学んだことを基に，「戦争」をテーマにこれから持続可能な社会を創っていく担い手としての自分の考えを述べましょう。本文の読取だけでなく，戦争に関する文章から得た知識や情報，読みとったことを用いて，自分の考えを分かりやすく伝えよう。

資料７－①　パフォーマンス課題の設定

そして，パフォーマンス課題を設定した上でルーブリックを作成し，生徒の「各教科で育成すべき論理的に思考し表現する力」や「ＥＳＤの視点から設定した育成すべき資質や能力」の育ちを見取り，指導につなげた（**資料７－②**）。



大人になれなかった弟たちに…

一年 1 組 番（ ）

今年度の広島原爆記念式典での「平和の誓い」で、子ども代表が「七十三年前の事実を、被爆者の思いを、私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります」と述べました。『大人になれなかった弟たちに…』の学習を通して学んだことを基に、「戦争」をテーマにこれから持続可能な社会を創っていく担い手としての自分の考えを述べましょう。本文の読取だけでなく、戦争に関する文章から得た知識や情報、読み取ったことを用いて、自分の考えを分かりやすく伝えよう。

○自分の考えを論じよう。 出典「おばあちゃん いとう せんそうごっこ」谷俊太郎

私は持続可能な社会を創るために、「戦争」は最もしてはいけないことだと思います。

今回学習した「大人になれなかった弟たちに…」では、戦争の時代を過ごした筆者の体験談が書かれていました。この文章から私は「僕」がどれだけ大変な思いをしたかがよく伝わったと感じました。この文章は全て「僕」の目線で進められており、「僕」が見たものや、母の様子などが印象的ですが、まだ幼い「僕」がそれらを受けて、様々な感情を抱いただろうなと思いました。例えば、弟が死んだときの感情もあまり記されていませんが、とてもかわいがっていた分、辛さや、「自分が頑張っていれば…」「苦労をかけた母を悲しませてしまった…」という悔しさもあったと思います。また、最後の「弟の死は一生忘れません。」という部分や、空が青く澄んだ情景描写からも、「僕」の強い責任感が感じられました。

谷川俊太郎さんの「せんそうごっこ」という作品では、当時の子供ではなく、せんそうごっこをする現代の子供の姿が描かれています。たった一つのおもちゃを取り合うところから、机に広げられた戦場で戦争が始まってしまいます。平和に暮らしている街がボタン一つで焼け野原になってしまうように、戦争とは、長い間積み重ねてきた平和を、一瞬にして消し去ってしまう惨めなものだと思いました。一人の子供が机の上で支配する、一つのおもちゃをめぐる争い、戦争がいかに狭い世界で行われているかがよく表されている作品だと思いました。

この二つの作品からも分かるように、戦争は、幼い子供たちが、大人が起こすことのために、我慢をしたり、辛い思いをしたりしなければいけません。また、幼いころの記憶だとしても心に深く刻まれ、消えない出来事です。私は、持続可能な社会をつくるためには、このようなことがあってはならないと思うし、このことを将来にもっと受けついでいく必要があると思いました。そして、受けついだ人は、それを受けて自分がどのような行動をすればいいのかを考え、広い視野を持って活かしていくことで持続可能な社会に近づいていくと思いました。

私も、今回戦争のことについて調べることができたので、身近にできることから積極的に始めて、社会の担い手として生活していきたいと思いました。

○ルーブリック（評価基準）…内容ごとに段落わけ、全体をうまく読み取る

	A+	A	B
	色場面と登場人物の心情や行動、情景の描写とを結び付けるなどして、深く本文の読取をしている。また、他の文章から得た知識や情報、読み取ったことをも関連させている。それらを根拠に、テーマに対する自分の考えを論じることができている。	場面や指導から読み取ったことを基に、本文の内容を述べている。また、他の文章から得た知識や情報を用いて根拠の付け足しとしている。テーマに対する自分の考えを述べている。	本文から読み取ったことを感想を交えてまとめている。また、他の文章から得た知識や情報も紹介している。テーマに対する自分の考えを述べている。
A+	接続する語句や指示する語句などを効果的に用いて、段落の役割によって正しく段落分けされている。自分が主張したい中心となる段落を文章のどこに位置づけるか、前後にどのような内容を書くかなど、構成や展開を考えて書いている。		
A	接続する語句や指示する語句などを用いて、内容によっていくつかの段落に正しく分けられている。自分の主張を述べる中心となる段落と、文章の読み取りなどを述べる段落が順序立てて書かれている。		
B	内容によって、いくつかの段落に正しく分けられている。自分の主張や根拠となる文が書かれている。		

資料７－②　パフォーマンス課題とルーブリックによる評価（評価Ａ＋の生徒作品）

この国語科の事例におけるパフォーマンス課題では，生徒は持続可能な社会を創る担い手として「戦争」に対する考えを持つために，『大人になれなかった弟たちに…』だけでなく，考えを更に深めるための文章を探し，複数の資料を基に自分の考えを確かなものにしていった。評価については，本文を場面と場面，場面と描写とを結び付けるなどして読み深めているか，本文の読取と資料とを関連付けることで自分の考えを更に確かなものにしているかを基に設定した。

5　研究計画－どのようにして研究を進めていくのか－

(1)　研究計画

一昨年度より，本研究主題の下での研究を３か年研究とし，次のように研究計画を立てた。

研究年次	研　　究　　内　　容
１年次	○各教員が，研究主題のもと研究テーマを設定し研究・実践を行う。一つの研究に対して，教育学部大学教員１名以上と共同研究を進める。 ○各教科等の目標や内容と「論理的に思考し表現する力」との関係を明確にした各教科の指導計画を検討する。 ○言語技術教育を推進するとともに各教科等においてその手法を活用した効果的な学習指導方法を開発する。 ○学校全体及び各教科領域において，育成すべき資質・能力の育ちを見取る評価内容や方法（パフォーマンス評価等）を検討する。
２年次	○１年次の研究の成果と課題を集約し，学校全体としての研究の焦点化を図る。これを基に，研究主題を具現化する研究実践の深化を図る。 ○カリキュラム・マネジメントの視点から，各教科が連携して「論理的に思考し表現する力」を育む教育課程を検討する ○言語技術教育，及び，その手法を活用した学習指導を充実させる。 ○各教科領域の研究テーマに対する評価を行い，研究をよりよいものにしていくとともに学校の研究主題に対する研究の評価内容や方法を検討する。
３年次	○２年次の研究成果と課題を基に，更に研究の深化・統合を図る。 ○学校の研究主題に対する研究の評価を行う。

研究最終年次は，昨年度の成果と課題を基に，各教科等で固有の論理的に思考し表現する力やＥＳＤを踏まえた育成すべき資質や能力を検討を重ねつつ，研究主題を具現化する研究テーマを各教科領域で設定するとともに，それを基盤として各個人において研究・実践を行った。

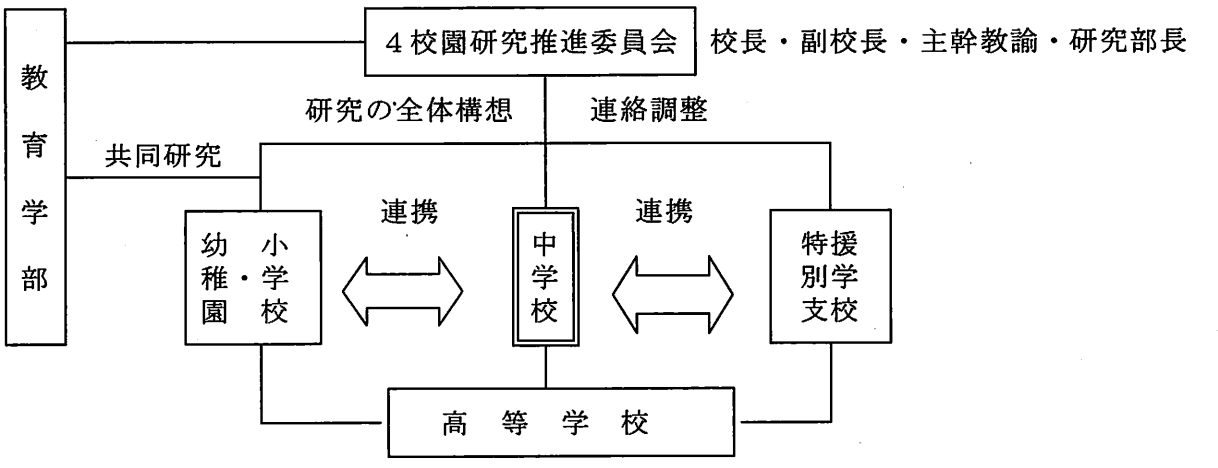
各教科領域毎に「持続可能な社会を生涯にわたって支えていく上で土台となる資質や能力」とはどのようなものか，また，それらが確かに育まれる教育活動を展開するためには，何をどうすることが必要なのか（Ｐｌａｎ），それを可能にするため各単元等でどのような指導の工夫を設定し，実践するのか（Ｄｏ），そして，それが授業（単元・題材・あるいは教科間）で確かに育ったのかどうか，さらには，何がうまくいってうまくいかなかったのか（Ｃｈｅｃｋ），どのようにすればよかったのか(Ａｃｔｉｏｎ)，という問いを常に持って実践していかなくてはならない。このような視点を持って，今年次，以下のＰＤＣＡサイクルを機能させ，すべての教科領域で実践的な研究の推進と授業の質の向上を目指した。

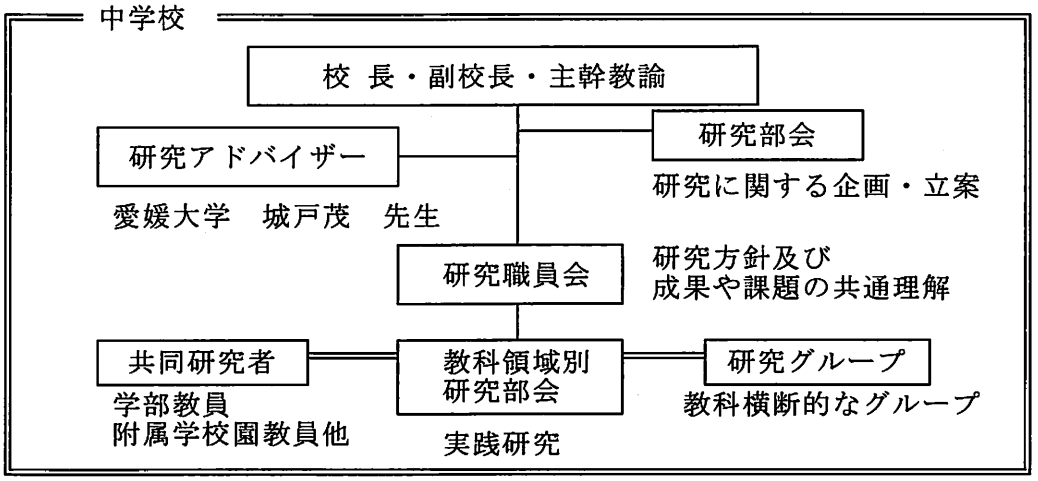
（今年次の研究推進計画）

時　期	研　　究　　内　　容	サイクル
４月	• 研究テーマ（各領域及び個人）の設定 • 研究計画書の作成 • 生徒の実態把握（各個人または各教科領域にて） • 指導方法や評価方法の検討（パフォーマンス課題やルーブリックの検討） • 言語技術教育の推進（継続して実施） 問答ゲーム，パラグラフによる１分間スピーチ等	Ｐｌａｎ Ｄｏ
５～10月	• 年次研究授業および研究協議の実施 ※研究グループ単位での授業研究	Ｄｏ
６・７月	• 逆向き設計テンプレートについての検討会 • 言語技術教育についての検討会 • 校内研修会 （本質的な問い・永続的な理解・パフォーマンス課題について）	Ｄｏ
９～12月	• 生徒の実態把握（各個人または各教科領域にて） • 検証改善サイクルを活用したアンケートによる論理的に思考し表現する力の育成に関する育ちの検証と研究の修正・改善	Ｃｈｅｃｋ Ａｃｔｉｏｎ
１～２月 ２月15日 ～３月	• 学校全体での成果と課題の検証 • 第98回　愛媛教育研究大会（中学校の部） • 検証改善サイクルを活用したアンケートによる育ちの検証	Ｃｈｅｃｋ Ｄｏ Ｃｈｅｃｋ Ａｃｔｉｏｎ Ｐｌａｎ

(2)　研究組織

各教科領域を基盤として各個人が研究・実践を進めていくに当たっては，本附属校園や大学教員等との共同研究を進めることにより，研究実践の客観性を高め，質の向上を図った。さらに，校内での教科横断的な研究グループを組織し，全教員が研究主題等への共通理解を図りながら研究ができる体制を整えた。





注

(1) 「『自立』及び『共生』の力」は，OECD DeSeCoプロジェクトの「知識基盤社会で生きていくためのキー・コンピテンシー」やESD-Jが提唱する「価値観」・「育みたい能力」・「学びの方法」を参考に設定

(2) 2017愛媛大学教育学部附属中学校研究報告集（研究紀要）

(3) (6) 西岡加名恵「教科と総合学習のカリキュラム設計　パフォーマンス評価をどう活かすか」(2016年) 図書文化

(4) 猪瀬直樹「言葉の力『作家の視点』で国をつくる」(2011年) 中央公論新社

(5) 三森ゆりか「論理的に考える力を引き出す」(2002年) 一声社